

味の素は小麦の蛋白質を原料として精製せる純白無臭の粉末で容易に湯や水に溶けるを以て頗る重寶の調味料です。其美味と滋養の點は一度お試しの方は御存じになります。殊に旅行に味の素さへお持ちになれば汽車・船舶の中海の上でも山の中でも到處の宿屋の料理にも美味いものに不自由なき事受合也。

知

三 二 一 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十 二十一 二十二 二十三 二十四 二十五 二十六 二十七 二十八 二十九 三十 三十一 三十二 三十三 三十四 三十五 三十六 三十七 三十八 三十九 四十 四十一 四十二 四十三 四十四 四十五 四十六 四十七 四十八 四十九 五十 五十一 五十二 五十三 五十四 五十五 五十六 五十七 五十八 五十九 六十 六十一 六十二 六十三 六十四 六十五 六十六 六十七 六十八 六十九 七十 七十一 七十二 七十三 七十四 七十五 七十六 七十七 七十八 七十九 八十 八十一 八十二 八十三 八十四 八十五 八十六 八十七 八十八 八十九 九十 九十一 九十二 九十三 九十四 九十五 九十六 九十七 九十八 九十九 一百

[illegible]

二 本 市 市 民 会 議 決 議 案 第 一 〇 五 号
 議 決 案 第 一 〇 五 号

通 京 館 講 義 二 卷 上

叮叮前前目内目目前



毒病
 治癒
 列は
 定じ
 大勢
 内世
 近
 通
 治癒
 列は
 定じ
 大勢
 内世
 近
 通

[illegible]

丁巳年
出前
署前
榮町

店あり

△

說部 史部 子部 集部 經部 禮部 刑部 兵部 工部 農部 商部 醫部 儒部 釋部 道部 雜部 附錄

毒病
 治癒
 列は
 定じ
 大勢
 内は
 近
 通
 治癒
 列は
 定じ
 大勢
 内は
 近
 通

あり おれ
おれ あれ
相違
鮮太郎
とて大層
車道
ツッパ
（この）
前丁目

[illegible]

仁川宮町二丁目
大邱月町停車場前
鎮附浦警察署前
晉州大安洞榮町
大連岩代町

全國の郵市と為り
音

盛つたろと
にせが
山果ろヨ

江見水蔭

運は天にあり

[illegible]

發行元

肥前長崎港口 極樂寺

電話 振替部 〇八六〇 六六

全圖に於て、一取次ナラス常ニ内腹ノ諸師病助療炎神精後腸結核肺尖如魚肝油炎、齒ハ
藥到病除ニ至ス。ナタシ生々名譽タルハ里人ノ故郷ニテ返ルバ本邦ニ一家敬世主職ノ位ヲ
榮ヘラレト如何ニモ若シ明ク安全ニ無カノ方ヘハ代金返戻仕付規定ニ付十分割額ノ上御座
ナルバ此處ニ留メテ買入成算ヲ取次人カ何カノ故郷ニテ返ルバ巨金ノ協合ハ町村級又ハ郡部等ノ
直轄分司御座知アレバ當事ハ補助事業ヲ正しく直ニ返金ス仍テテ二禮告ス散席十日四分四開取
十日分司年代金引替ノ外送料無料

皮膚の荒れを化粧水

防くには朝夕

一年の中で、
粧の困難しい
美しく整つて居
いお化粧が出入

御園四季の花
 今が一番皮膚が荒れ勝て御化
 季節で御座います、皮膚さへ
 節で御座います、面白い様に美し
 来ます、朝夕の洗面後、入浴
 東京神田區東門町
 振替東京一六九九八
 足價にて郵送候
 金貳圓四拾五錢
 米山萬治郎商
 (八四三)

小

菊正一升

加藤大使は、ランのコップを置いては數島を喰へる、見る中、数島の膝股に賊証並にはみ出。

「豈下は蘭貨を召上りませ云ふ」云々大使は「あはは」三昧笑して

「うん、なりや喰う方だね、何しろ四百箱、行つて二萬本の數島を煙にして來たさ、驚徳も嘆かな、ではないが、數島の方が輕くて可い」

又新しみの火を附けた。數島が經ひたて、疵處に立て續けに飲んだら、口腹を盡くするだらうと思つた大使の顔で悶める。併し別室が開れてゐるやうに見えない。

新日曜
 月やゝ確實な
 アメノール
 成功費部中込天事密打通
 市本郷区三東京堂藥局
 町二板替東京四七六六七
 願京原坂中市町東下五
 煙硝子工塩
 弟兄主
 主大
 上其地一般の御けエキ所廣成
 改活生



職業

本報特聘名師
 專授各種職業
 課程如左
 一、會計
 二、簿記
 三、英文
 四、珠算
 五、國文
 六、常識
 七、體育
 八、音樂
 九、美術
 十、勞作
 十一、衛生
 十二、社會
 十三、自然
 十四、歷史
 十五、地理
 十六、政治
 十七、法律
 十八、經濟
 十九、軍事
 二十、宗教
 二十一、哲學
 二十二、心理
 二十三、教育
 二十四、社會
 二十五、政治
 二十六、法律
 二十七、經濟
 二十八、軍事
 二十九、宗教
 三十、哲學
 三十一、心理
 三十二、教育
 三十三、社會
 三十四、政治
 三十五、法律
 三十六、經濟
 三十七、軍事
 三十八、宗教
 三十九、哲學
 四十、心理
 四十一、教育
 四十二、社會
 四十三、政治
 四十四、法律
 四十五、經濟
 四十六、軍事
 四十七、宗教
 四十八、哲學
 四十九、心理
 五十、教育

明
 生
 先
 良
 藥

良
 後に化粧水湖用
 忘れなくおつけ
 皮膚の荒れる事
 おつけになれば
 なく目覺る許の

クラブ齒磨の常
 合理的生活の第

用は
 一歩

第一に、行動は何かと申します。此の門は、
 極めて有意義な事で、「善は徳の門」とい
 へば、徳を修め、善を成すには、此の門を
 入らねばならぬ。此の門は、徳を修め、善
 を成すには、第一の要諦である。此の門を
 入らねば、徳を修め、善を成す事は、不
 可能である。此の門は、徳を修め、善を
 成すには、第一の要諦である。此の門を
 入らねば、徳を修め、善を成す事は、不
 可能である。

ひ無いわ」

「然して、差違へ何を願ふの」

「田丸岸の揚物やパンヂウ位ではお茶出来たぢや」

「ベチヤチヤ」

「其時が、お母方から驚しので、警備器の扉に入つた様で、親子のやがて、鳴つた」

「あら、何んでも無いんです。一寸親類へ行つて來たのですわ」

「親子は、義理に成つて歸來した」

「あら、親類は好かつたね。親類にだつて種々有るんですからな」

田郡谷はニヤ／＼笑ひながら、

「そんなに何もツンケンせんね、もぢらうが。親子やあれ、如何したい。池上へ行くんが、つゝいたが、水無に池上へ行たのかい」

親子の答へるのを待はず、タ

會席御料理
京坂南御土目、池上御開張
竹の家 岩

電 話 五二一六

「それ、お願ひなす。池上へ」

「それ、お願ひなす。池上へ」

[illegible]

磨^か齒^きはブ^フラ^ラクと造^{ぞう}



果す爲には、此の如くともクラブの様な、優良な製品を
 一の品を採擇するに必要であるので多少
 の直販の毀喪を被此し、却て未だ安物な
 お客になつては、いりませぬ此處
 から申しますと、賢明な方に、理
 想の施設として、推奨され
 り、あるクラブの施設
 を採用になる
 のは、金消費者
 として、経済的生
 活の第一歩を
 踏むればなら
 ん、誤りでありま

す